

## 研究主題 「小学校における性教育の在り方・進め方」 ～ 多様性を認め合える性教育の推進 ～

### I 団体の概要

小学校における性教育の在り方・進め方について研修会や研究授業を通して研究を推進している。また、性教育に関する情報共有や課題解決にも取り組んでいる。

### II 研究の目的

近年の子供たちを取り巻く環境の変化に伴い、実態や課題に応じた性を含めた心身の健康に関する指導の重要性が高まっている。

子供たちが性に関する正しい知識を身に付け、適切な意思決定や行動選択ができる力を育むための指導方法の工夫を明らかにすることを目的とし研究を行う。

今年度は特に、多様性を認め合える性教育の推進として、「生命（いのち）の安全教育」や「多様性の理解」についての指導に重点をおき、研究を深めることにした。

### III 研究の方法

- 講師を招聘しての学習会を通して、国や東京都の性教育に関する動向や指導の留意事項等について学び、性教育の推進のために活用する。
- 「主体的・対話的で深い学び」に沿った小学校における性教育の在り方について、授業実践や研究授業を通して理解を深める。
- 組織的、系統的に性教育を実践している事例校から学び、会員の所属校における性教育の充実につなげる。

### IV 研究の内容

#### (1) 学習会「生命（いのち）の安全教育」の推進

講師 東京都小学校性教育研究会会長  
北区立柳田小学校校長 大田 裕子 氏

文部科学省「生命の安全教育」指導の手引きや東京都教育委員会「人権教育プログラム」「生命の安全教育 指導資料」などを活用し実践を推進することが必要。

指導のねらいに沿って、子供の発達段階や発達特性を踏まえ推進することや、担任や保護者に指導内容について情報共有を図ること、他の教科領域と連携しながら効果的に実践を継続することが大切であると話し合った。

学校規模や子供の実態等は様々であるが「生命の安全教育」の実践を通して、自分の意思表示をしてよいこと（嫌なことは、嫌とってよいこと）、自分と相手の「距離感」に違いがあること、身の回りの大人に「助けて」と伝えることが大事であることなど、子供たちが学び得たことの多くは、自己理解と他者理解につながり、よりよいコミュニケーションづくりに欠かせない実践にもつながると感じた。



#### (2) 授業実践と研究協議

授業公開 「第4学年 特別活動」  
単元名 自分らしさを大切にしよう  
授業者 北区立浮間小学校 主任養護教諭 田村 佳子

第4学年の体育科保健領域「体の発育・発達」では、思春期に起こる体や心の変化について学習する。これまで、目の前にいる児童の中に自分の身体の変化や、「異性への関心が芽生える」という記述に違和感をもつ児童がいるかもしれないということ念頭に置き、配慮をしながら指導してきた。これからは、児童に性自認や性的指向について正しく情報を伝え、性の多様性を認め合う指導を行う必要があると強く感じた。

そこで今回は、体育科保健領域の学習に加え、学級活動を関連させた指導計画を立て、多様性を理解し、多様な他者と理解し合って協力し合える人間関係を形成するために大切なことを考える指導を行うことにした。

学習前に児童の認識を把握するためにアンケートをとった。アンケートの内容は、児童のこれまでの経験や認識からは不自然に感じるであろうと思われる状況についてありか、なしかで質問した。例えば「男の子がピンクのランドセルを買うのは。」「中学校の制服で女の子がズボンをはくのは。」「男の子が制服でスカートをはくのは。」などである。



授業の導入では、事前アンケートの結果を示し、自分たちは無意識に性別による思い込みや、偏った見方をしていること、また、色や形、職業などによっても偏った認識をしていることに気付くことができるようにした。社会には、そのような状況によって「自分らしく生きられず苦しんでいる人もいる」ということも伝え、性別も障害の有無も国籍も含めて「多様な人」がいて、それは「当たり前なこと」であることを確認した。

そして「性」にも多様性があることを伝えるために、『SOG1』の捉え方を示した。性を ①からだの性、②こころの性、③好きになる性、④表現する性 の4点の性で表し、一人一人違うのが当たり前という考えがもてるように工夫した。そうすることで、「自分も多様性の中の一人」であることが分かり、一人一人違うのが当たり前という考え方が理解できたようだった。



最後に、そのような社会の中、学級の中で、誰もが安心して過ごせるようにするために、自分ができることは何かを考えた。性に関して個人差、性差はあるものの、自分自身のこころとからだに向き合い、成長を肯定的に捉える児童が多く見られた。

＜授業後の児童の感想＞

・心にも個人差があることが分かった。・私と違う価値観なんだ、すてきだなと考えられるようにする。・人それぞれ好みがあるから傷付かないように優しい言葉を掛けられるようにする。・自分と違って多様性があるから友達を責めないし、友達と違って多様性があるから自分の考えはなくさない。・性別で思い込みをもたないことが大切だと思った。これからも決めつけしないで自分もみんなも自分らしさを大切にしたい。・みんながやっていないでも自分は自分らしく生きてみたいと思う。・多様性の意味が分かった。これからは多様性について考えながら生きたい。・それぞれ個性があるのでそれを認めて「いいね!」と言いたい。・わざわざ友達と同じ考えにしないで自分の考えでいいことが分かった。・見た目で判断しないと決めた。性別は見ただけじゃなく中身だと知った。

(3) 第52回 全国性教育研究大会参加

会員に参加希望を募り、8月3日・4日に栃木県宇都宮市で開催された第52回 全国性教育研究大会に参加した。

発達段階別の小学校分科会では二つの実践事例が紹介され、その一つが前述した北区立浮間小学校の実践報告であった。

課題別の分科会では、「性別に違和感をもつ児童生徒への対応を考える」「性被害、性暴力の防止教育を考える」「性に関する個別指導を考える」の3つの分科会に分かれ、学んだことをレポートにまとめ会員に報告した。

全国から参集した教職員やさまざまな業種の方々と学び合いができたことで、大変充実した研修機会となった。

V 研究のまとめ

○性教育を学校全体で推進するために、性教育全体計画や他教科とも関連付けた指導計画の作成が課題となる。カリキュラムマネジメントの教科等横断的な視点を取り入れ、組織的かつ計画的に性に関する指導が行えるような整備が必要である。

○性の多様性について、社会的な関心は高まっているが、その理解や指導は十分に進んでいるとはいえない。まず、教職員自身の理解を深めるための研修の充実や、人権教育等とも関連させた実践を積み重ねていく必要がある。

＜令和6年度連絡先＞

団体名		東京都小学校性教育研究会	
代表者	所属	北区立柳田小学校	
	職氏名	校長 大田 裕子	
	連絡先	03-3911-5409	
事務局	所属	北区立浮間小学校	
	職氏名	主任養護教諭 田村 佳子	
	連絡先	03-3969-0491	
団体ホームページ	URL	—	二次元コード
		—	—